

地方医療・介護のいま

2025.12

昨今の地方における医療・介護は多くの問題を抱えています。

◎医師不足は長年解決困難な課題です。医師が定着しない理由は、働き方改革、資格取得や維持が困難、生活環境が不十分など様々です。病院診療は当直などで少なからず非常勤医師に依存していますが病院にとっては経営上大きな負担になっています。なお、10月以降、金山病院に2名の医師が自らの意思と関係者の努力によって正職員として加わられました。地域医療のさらなる充実を目指すために大きな力となるでしょう。



◎看護師、介護士不足については、今後支援が必要な高齢者、独居世帯について対応が困難となることが予想されます。在宅療養者を支援する訪問看護師や病院や施設で働く介護士不足はサービスの提供に影響を及ぼすことが懸念されます。介護士については全国で外国人人材の受け入れに頼らざるを得ない状況になっています。金山病院でも現在2名の外国人人材を受け入れ病棟での介護業務にあたっています。

◎地方では病院の運営については地域をささえる病院として診療の質を維持するために不採算部門を抱えながら努力しています。しかし、金山病院では診療圏の人口減少による入院利用の減少や、看護師不足も相まって療養病床を閉鎖せざるを得ませんでした。そのような中で病院としてより良いサービスを提供する一環として、在宅生活を全力でサポートする活動として、介護支援のレスパイト入院、リハビリ入院などを推進しています。詳しくは広報誌10月号をご覧ください。

◎医療・介護の費用は利用者の保険料（税金）、公的負担金（税金）と自己負担金によって支払われ（診療・介護報酬）、これが業務に必要な経費、人件費となっています。支払われる保険料は、高度医療や高齢化の進行とともに年々増大しています。国は医療費の抑制策の一つとして自分の健康は自分で守るセルフメディケーションを推進し、軽い病気の症状緩和などに薬局・薬店・ドラッグストアなどで処方せん無しに（保険を使わないで）購入できる医薬品（OTC医薬品）の種類を増やすことを検討しています。私たちも定期的な健康診断を受けて疾病の早期発見早期治療を心掛け、運動習慣、バランスのとれた食事、十分な休息をとってより良い健康の維持に努めることが、大切な健康保険制度を守ることになるでしょう。

下呂市立金山病院 顧問 古田智彦